



〔山陰海岸国立公園〕
猫崎半島（豊岡市）
（ジオパーク）

基本戦略Ⅲ

豊かな自然を未来へつなぐ仕組みづくり

1 生物多様性への配慮行動の促進

人の営みは生物多様性に様々な形で影響を及ぼします。県民一人ひとりがものを大切に、生物多様性に配慮したライフスタイルに転換できるよう、地域で生産されたものを地域で消費する「地産地消」「県産県消」の推進、プラスチックごみ対策、食品ロスの削減など、暮らしに根ざした資源循環の取組などを進めます。

主 な 施 策

県産県消の推進

- 新鮮で安全・安心な県内産の農林水産物の消費拡大を進めるとともに、県産農林水産物を活用した学校給食メニューの検討・導入を進め、子どもたちの食文化への理解促進を図ります。



兵庫県認証食品の
ロゴマーク



県産大豆を使用した給食用の
味噌づくり体験

プラスチックごみ対策の推進

- プラスチックごみ削減に向け、3R※の取組を徹底するとともに、再生可能資源への代替(リニューアブル)の観点も加えた新たな資源循環の取組を強化します。

Reduce

ワンウェイプラス
チック削減

Reuse

関西広域連合と連携
した普及啓発

Recycle

集団回収強化、
食品トレイ等の
分別徹底 等

+

Renewable (再生可能な資源への転換)

※ 3Rの徹底

①ワンウェイプラスチック(レジ袋、ストロー、トレイ等)の効果的な削減、②県内企業で生産される生分解性プラスチックの導入など代替素材への転換、③プラスチックごみ散乱防止・回収活動等の「見える化」による県民の自主的取組を促進します。

プラスチック資源循環の促進

- 観光やスポーツなど異分野業種や市町、リサイクラー等と連携し、プラスチックの使用削減などの促進や、市町が回収する製品プラスチックの効率的な資源循環に向けた取組などの「ひょうごプラスチック資源循環コンソーシアム」を展開します。

ひょうごプラスチック循環コンソーシアムによる主な取組例



アメニティグッズのプラスチック使用削減・生分解性プラスチックの利用促進



海洋プラスチックごみ対策として生分解性プラスチックへの置き換えを促進



ごみ問題を自分事として捉えるきっかけとして、ごみ拾い時等に「兵庫県版ピリカ」の活用を促進

2 身近な自然とふれあう機会の充実

身近な自然や生き物とのふれあいは、自然に対する関心や自然との共生への理解に繋がります。県民の皆さんが県内の豊かな自然に親しみ自然の恵みを感じることができるよう、自然とのふれあいの機会の充実を図ります。

主 な 施 策

自然公園の利用促進

- 自然公園における利用の快適性、安全性を確保して、利用を促進するため、自然公園内にふれあい施設や野営場、トイレ、看板・標識などを整備するとともに、老朽化対策を適切に実施します。



とのみね自然交流館



六甲山ビジターセンター



六甲最高峰トイレ

自然や歴史文化などの地域資源を体験できる機会づくり

- 身近な自然景観や歴史文化とふれあえる近畿自然歩道では、案内板や標識、休憩施設、トイレなどを整備し、四季を通じて、気軽に楽しく安全に歩くことができる機会を提供します。

※4ルート・64コース（約580km）を設定
（日本海沿岸ルート/子午線円山川ルート/
山陽路ルート/淡路島ルート）



JR和田山駅前の総合案内看板の更新（朝来市）



ひょうごフィールドパビリオンでの自然資源を活かした取組の推進

- 兵庫五国の活動現場（フィールド）を地域が主体となって発信し、体験する「ひょうごフィールドパビリオン」のSDGs体験型地域プログラムとして「自然・環境部門」を認定し、県内の自然資源を活かした取組を進めます。

【紹介】坊勢島 漁業見学&体験ツアー（姫路市）

坊勢漁業協同組合では、漁業見学船「第八ふじなみ（19トン）」による海上での漁業見学や家島諸島のクルージング、坊勢島での漁業施設などを見学できるツアーを提供。

本プログラムは、近年、海で起きている水産資源の減少などに対して最先端で立ち向かう島の漁師達から直接学ぶことができるプログラムとなっています。



漁業を身近に体験

3 地域における学びの機会の提供

本県には、生物多様性に関連した環境教育や自然体験活動を行う拠点・施設が多くあります。子どもから現役世代まであらゆる世代が身近な自然に直接ふれあいながら自然や生態系について学べるよう機会の充実を図ります。

主 な 施 策

地域団体や専門機関などによる持続的な環境学習・教育の提供

● ふるさと兵庫こども環境体験の推進（ひょうごエコロコプロジェクト）

幼少期から様々な環境体験の機会を届けるため、県立人と自然の博物館、県立大学など、一定の専門性をもつ指導者による環境体験を継続的に受けられる体制づくりを推進します。

● ひょうごグリーンサポーターによる学びの機会の提供

地域での環境体験・環境学習を支えるひょうごグリーンサポーターにより地域における自然保全活動を推進します。

● 緑の少年団活動支援

森林での学習や緑化活動を通じて自然や人を愛せる人づくりに向け緑の少年団の活動を支援します。



ひょうごエコロコプロジェクト2023
「水のふしぎたいけん」



ひょうごグリーンサポーター
（洲本市）



森や緑について学ぶ緑の少年団
（三田市）

企業研修などを通じた現役世代における生物多様性への理解促進

- 企業が地域団体と協働して植樹や森林保全活動に取り組むことで、役職員や従業員の環境保全への理解醸成が進むよう企業と地域団体との橋渡しを支援します。

【紹介】株式会社伊藤園における社員研修

株式会社伊藤園では、社員が「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」団体である「東お多福山草原保全・再生研究会」が行う森林保全活動に参加して、自然保全への理解醸成に努めています。



団体の活動に伊藤園社員が参加

社会教育施設による生物多様性への理解醸成

● ひょうご環境体験館

ひょうご環境体験館を環境学習の拠点として、体験活動等を通じた地球温暖化をはじめとする環境問題への意識向上や環境保全・創造活動を促進します。

● 県立人と自然の博物館

県立人と自然の博物館では、「ひとはくセミナー」や「オープンセミナー」など、野外観察や実習、教室の講義など幅広い分野の多彩な講座を設定、子供から大人、専門家まで幅広い層が環境について学べる機会を提供します。

1 学校における環境学習・教育の推進

学校における体験型の環境学習・教育の充実を図ります。地域における人材活用や、体験のフィールドとなる里山林など学習場所や機会の提供など、地域全体で取組を支援できるよう学校との一体的な連携を進めます。

主 な 施 策

兵庫型「体験教育」の推進

● 環境体験事業の実施

全公立小学校3年生を対象に、「ひょうごグリーンサポーター」や地域住民の協力を得ながら、自然観察や飼育など、自然にふれあう体験型環境学習を通じて、命の営みや関わり、その大切さを学ぶとともに、ふるさと意識を育む環境体験事業を実施します。



環境体験事業における
水辺の調査
(洲本市立安乎小学校)

● 自然学校の推進

全公立小学校等5年生を対象にした「自然学校」は、学習の場を教室から自然の中に移して、豊かな感性や社会性などを育む体験授業です。4泊5日という長期の宿泊体験学習は全国的にもユニークな取組で、児童にとっては、自然の中で命のつながりや大切さを学ぶことのできる貴重な機会となっています。



自然学校推進事業における
隠れ家づくり
(加西市立北条東小学校)

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)等における環境教育の取組

● 未来を担う科学技術人材を育てることを目的に文部科学省が進める理数系教育の充実を図る取組で、兵庫県でもSSHの指定を受けた高校が環境課題に創意工夫しながら熱心に取り組んでいます。

尼崎小田高等学校

瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット

行政や県内外の高校・大学等と連携し、尼崎運河の調査や、須磨海岸等でのワークショップを開催し、かつての豊かな瀬戸内海を取り戻す「再生」に向けて取り組んでいます。



左:須磨海岸での生物採集
右:地域課題ワークショップ

龍野高等学校

「生物多様性龍高プラン」～地域の自然と生き物保全活動～

絶滅危惧植物ヒシモドキやサギソウなど学校近隣の自生地での調査保全活動や生息域外保全、環境教育への活用、県民への啓発活動など、生徒による生物多様性保全活動のモデルとなるよう取り組んでいます。



左:ヒシモドキの生息域外保全
右:研究成果の発表



コラム

高校生による生物多様性への取組事例（ひょうごSDGsスクールアワード顕彰校から）

県立北条高等学校

希少種の宝庫「あびき湿原」を守りつづける

- あびき湿原は加西市にある県内最大級の滲水(しんすい)湿原であり、兵庫県の天然記念物に指定された希少種の宝庫です。
- 北条高校では、湿原の希少種を守るため活動に取り組んでいます。生徒自身が地域の保全団体の作業を間近で見ることを通して、保全活動全般について知見を広げ、身近な自然への観察力・洞察力を高める活動を行うほか、湿原の魅力や価値を広めるための情報発信に努めています。



外来種の駆除



湿原内の木道の修繕

東洋大学附属姫路高等学校

地域資源を活用した自然循環型社会を目指した取り組み

- 学校の近隣では、農業従事者の減少により耕作放棄地が増えていることから、幻の伝統野菜や姫路若菜等を栽培・復活させ、特産品を製作したことで注目され、耕作放棄地の有効利用のきっかけを作りました。
- また、育てた農作物がシカによる被害を受けた経験から害獣を地域資源にできないかと考え、解体から体験し、特産品化することで命の循環に努めるなど、持続可能な社会を考え、多世代交流を行い、地域が抱える問題を解決する活動に取り組んでいます。



シカ肉の解体



シカ肉の缶詰やシカ革を活用した作品など

県立御影高等学校

生物多様性の保全を目指し、その価値の理解を深める

- 六甲山に生息するキノコの標本を神戸市立森林植物園、兵庫県立人と自然の博物館、地域の施設などで展示しています。
- また、キノコの観察記録の分析を行い、その結果を学会やイベントで発表しています。最近は県外でも展示会や研究発表を行っており、これらの活動を通して地域における生物多様性とその保全に向けた普及啓発に取り組んでいます。



キノコの研究発表



ひょうごSDGsスクールアワードについて

兵庫県教育委員会では、子ども達が主体となって取り組んでいるSDGsの目標達成につながる活動に関し、特に先進的な取組を行っている学校園をひょうごSDGsスクールアワードとして顕彰し、広く県内の学校園にSDGsについて普及啓発を図っています。

2 環境創造を担うユース世代の育成

高校生や大学生などのユース世代が、様々なフィールドワークやワークショップなどの体験活動や相互の議論・交流などを通じて、生物多様性をはじめとした環境課題に取り組む力を育むことができるよう、環境創造を担う人材の育成を進めます。また、将来世代とも共創しながら生物多様性の保全等に取り組みます。

主 な 施 策

ひょうごユースecoフォーラムを通じた学生の自己研鑽の機会提供

- 高校生・大学生の企画運営により、世代や分野を超えた環境保全・創造活動の担い手達による活動発表や企業等の取組を紹介するフォーラムを開催し、若者世代による環境活動の活性化を通して将来社会の担い手の育成に繋がります。



ひょうごユースecoフォーラム
口頭発表



ポスターセッション

ひょうご高校生環境・未来リーダー育成プロジェクトの推進

- 環境問題等に関する講義・ワークショップ等の研修や有識者との意見交換、課題解決プランの作成・提案を支援し、環境問題を科学的・論理的に捉え、解決策を考え実践できる資質を身につけた「次代の兵庫の環境創造を担うリーダー」を育成します。



グループ発表



消化液(畜産副産物)の利用拡大
に関する提案

県立人と自然の博物館によるユース世代の人材育成

- 高校生・大学生と連携した学びの場づくり
県内の高校などのプロジェクト学習に対する支援や、大学生のインターンシップや博物館実習の受け入れを積極的に進めます。また、高校生・大学生を対象とした博物館のセミナーやプロジェクトなどの博物館活動および学習支援の強化と充実を推進します。



特注セミナーエコロコプロジェクトの体験
(湊川短期大学生対象)

- 現役世代などとの交流を通じたユース世代の資質向上

「共生のひろば」では、世代や立場を越えて、相互に情報交換や交流を行うことで活動の輪を広げ、新たな活動のヒントを得る場を提供します。そこでの交流を通じてユース世代の資質向上を図ります。



共生のひろば



コラム

「ひょうご環境未来会議」における将来世代からの提言

- 「兵庫県環境基本計画」及び「生物多様性ひょうご戦略」の改定にあたり、将来の社会を担う若者世代の意見を聞き、計画・戦略に反映させることを目的に、2024年6月、神戸・姫路・豊岡の3会場において「ひょうご環境未来会議」を開催しました。

〔協力〕(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)関西研究センター 〔協力(学術指導)〕大阪大学大学院工学研究科 原圭史郎教授

- この会議では、参加者が2050年に生きる未来人になりきって、その立場からの現在の施策を考える「フューチャーデザイン」という手法により、「脱炭素」「自然共生」「資源循環」の各テーマに分かれて活発な議論がなされました。
- 当戦略では「自然共生」などのテーマで出された意見も参考にしながら、行動目標や推進施策を策定しました。

テーマ「自然共生」での主な意見

自然環境保全

- 学校・地域単位での希少生物の保全
- 生物多様性保全の義務化
- 里山・山林の環境整備の推進
- 自然アクティビティを通じた生物多様性エリアの保全

鳥獣害対策

- ドローン・センサーの活用による生息数・生息域の把握
- ジビエの活用・普及促進

環境学習

- 自然体験・ワークショップの充実
- 授業における環境学習の一層の充実
- 世代間交流・セッションの場の機会創出
- 企業の環境学習への参加促進
- 守るべき地域の絶滅危惧種の教材化

人材育成

- 環境活動・自然保護活動の専門化

行動変容

- プラスチックの徹底削減・利活用

農業振興

- 農作物のブランド化・高付加価値化

【総参加者数】高校生、大学生、若手社会人、計67名



神戸会場

兵庫県の現状や未来について学習



豊岡会場

グループワークを行い、2050年の未来人になりきって現在へアドバイス



姫路会場

最後に参加者で記念撮影

3 環境リーダー・専門分野の担い手育成

本格的な少子高齢化や人口減少が進行する中、さらなる自然環境の保全を進めるには、自然環境分野のリーダーや担い手を育成することが喫緊の課題です。県では、知識や技術が次世代に円滑に継承されるよう、環境リーダーや専門分野の担い手など人材の育成を進めます。

主 な 施 策

県民参加による環境リーダーの育成

● ひょうごグリーンサポーター

全公立小学校での「環境体験事業」をはじめ、子どもたちの環境学習を支援する「ひょうごグリーンサポーター」を県民局・県民センターごとに募集・登録し、環境保全を進める人材を確保します。

● 森林ボランティアの育成

講習会等を通じて森林を守り育てるための知識・技術向上を図り、県民総参加の森づくりを進めます。



森林ボランティア講座(植栽実習)
(川西市)

農林水産業における担い手の確保・育成

● 有機農業の担い手育成

県立農業大学校に2026年度開校予定の「有機農業アカデミー(仮称)」などを通じて有機農業の担い手育成を図ります。

● 林業の担い手育成

県立森林大学校における人材育成をはじめ森林施業プランナー・現場技能者の資質向上を図ります。

● 漁業の担い手育成

漁業現場での長期研修支援などにより、次世代を担う漁業者や新規船員の確保・育成を推進します。



林業機械学実習
(県立森林大学校専攻科)

狩猟後継者の確保・育成

- 狩猟への関心を高める体験会や免許取得のための知識を学ぶ講習会等を開催するほか、狩猟初心者を対象に狩猟知識・技術を習得する「狩猟マイスター育成スクール」や熟練狩猟者による「銃猟のマンツーマン指導」等により後継者の育成を推進します。



狩猟マイスター育成スクール
銃実習(豊岡市)

専門機関による指導者養成

- 県立淡路景観園芸学校における景観園芸・園芸療法等の専門家庭教育や、県立人と自然の博物館による学校の教職員・指導者セミナーの実施などを通じて指導者育成を図ります。



軽く、手が汚れにくい衛生的な植栽基盤である木質繊維(DWファイバー)を使用した園芸療法

1 開発行為における生物多様性への配慮

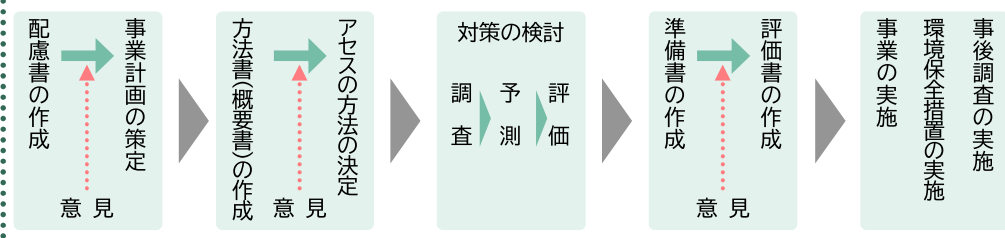
開発行為にあたっては、野生動植物の保護に最大限配慮し、自然との共生を図りながら進めていく必要があります。このため、事業者等に対して環境影響評価(環境アセスメント)をはじめとした各種制度・指針などを通じて一定の規制や配慮方法を明示し、開発行為の適正化に努めます。

主 な 施 策

環境影響評価(環境アセスメント)による自然環境への配慮

- 環境に著しい影響を及ぼすおそれのある大規模な開発行為等の実施に際し、あらかじめ環境への影響を調査、予測、評価して、環境の保全の観点からより良い事業計画を作り上げるため、「環境影響評価法」(アセス法)及び「環境影響評価に関する条例」(アセス条例)に基づき、事業者への指導や審査を行います。

環境影響評価手続の流れ



生物多様性配慮指針の活用促進

- 企業や行政などが実施する工事などの際に、生物多様性保全のために具体的にどのような配慮が必要であるかを、6つのカテゴリー※ごとに示す手引書として「生物多様性配慮指針」を作成・公表し、その活用の普及促進に取り組みます。

※6つのカテゴリー:河川、道路、港湾・海岸、森林、農用地、ため池



林道設計における現地地形に沿った波型線形の採用
(在来種の生息・移動空間の確保)

太陽光や風力などの再生可能エネルギー導入時の自然環境への配慮

● 環境影響評価法・アセス条例に基づく配慮

太陽光発電施設の新設・増設について、環境影響評価審査会による厳格な審査を通じ、事業者による自然環境等への配慮の徹底を図ります。また、事業区域面積が一定規模以上の森林の伐採やため池での水上設置を行う小規模な太陽光発電施設に対して、「小規模太陽光発電施設に関する自然環境調査指針」に基づく指導を行います。

● 「太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例」による規制

県では、標記条例において、太陽光発電施設等の設置に係る事業計画の届出制度を創設する等、その設置及び管理に関して必要な事項を定め、良好な環境及び安全な県民生活の確保を進めます。特に、2024年10月からは当該条例を改正し、災害の危険性が高い森林における太陽光発電施設の設置について許可制を導入するなど防災面を強化するとともに、自然環境との調和を条例の目的に明示、廃棄の適正な措置を設置者の責務に追加するなどの規制を強化します。



環境影響評価現地審査

2 市町や企業などにおける生物多様性の取組促進

地域での生物多様性への取組が進むよう、市町や関係団体における地域戦略の策定を支援します。また、特に、中小企業などにおけるSDGsの取組を進めるとともに、県債発行（グリーンボンド）などにより調達した資金を生物多様性の保全などの取組に活用します。

主 な 施 策

市町・地域団体における地域戦略の策定

- 個々の取組が全県レベルでの生物多様性の保全に繋がることから、市町の地域戦略策定が進むよう市町への啓発を図ります。本県では身近な学校区域や公園など、地域レベルでの戦略策定も行われており、そうした個々の取組の相互連携に努めます。
〈11市町41団体が策定（2023年度末現在）〉

中小企業のSDGs取組推進

- 中小企業によるSDGs経営の裾野拡大を図り、優秀な人材確保やビジネス機会の拡大を後押しするため、「ひょうご産業SDGs推進宣言事業」を実施し、SDGsの達成に向けて取り組む企業の宣言内容を登録して広く公表するとともに、宣言企業のステップアップとして「ひょうご産業SDGs認証事業」を実施し、SDGsの取組のさらなる深化を促進しています。



ひょうご産業SDGs
認証事業創設記念
フォーラム

生物多様性保全のための資金確保

- **兵庫県SDGs債(グリーンボンド)・ひょうごグリーン県民債の発行**
グリーン化に特化した県債発行を通じて、地域におけるSDGsや再生可能エネルギーの導入、気候変動への適応、生物多様性保全などのグリーン化を推進する取組を推進します。
- **県民緑税(県民税均等割の超過課税)**
災害に強い森づくりや県民まちなみ緑化事業など緑を守り育てる取組に活用します。
- **緑の募金**
森林ボランティア活動や環境学習、ふるさとの巨樹保存、地域の緑化活動などの支援に活用します。
- **生物多様性ひょうご基金**
企業の売上の寄附などを通じて生物多様性保全プロジェクトの活動支援を行います。
- **ふるさとひょうご寄附金**
ふるさと納税を活用して「里山・里海再生支援」、「森林資源活用促進」、「県立都市公園リニューアル」などの各プロジェクトコースを設定し、県内の自然環境保全を進めます。



森林ボランティア活動
(三木市)



基金への寄附感謝状贈呈式
(イオングループ2社)



コラム

ひょうご産業SDGs認証事業「ゴールドステージ」に認証された県内中小企業の事例

浜田化学株式会社

(尼崎市、廃食用油・食品リサイクル業)

廃食用油による自己循環型リサイクルを実現

- ・飲食店等から回収した廃食用油を再生資源（飼料用添加油脂やバイオ燃料など）にリサイクルすることで循環型社会の実現に貢献
- ・廃食用油のリサイクル啓発のため、ワークショップを通じた環境教育や家庭系廃食用油の回収拠点拡大の取組を推進



株式会社ソーイング竹内

(多可町、繊維製品製造加工卸売業)

廃棄生地を生かしてアップサイクルを推進

- ・廃棄生地を生かしたアップサイクル製品(工業用機械部品等)について地域を上げた取組を推進
- ・コロナ禍に安心安全な繊維を用いた布製マスクの生産を開始し地元自治体等へ寄贈



株式会社西山酒造場

(丹波市、食料品製造業)

発酵文化発信施設“鼓傳(こでん)”による地域連携の推進

- ・鼓傳において、地元丹波産の規格外野菜を使用した料理を、丹波立杭焼の食器・丹波産木材のトレイ等により日本酒とともに提供し、地域と連携した取組を推進
- ・酒造のプロセスに沿った地域の子どもへの自然教育、清酒に欠かせない水質保全に資する地域清掃活動等を長期に渡って持続



コラム

企業による「森づくり」

川崎重工業株式会社(神戸市、製造業)

- ・2014年4月(多可町中区牧野地区)並びに2019年4月(小野市黍田町地区)に本県等と締結した「企業の森づくり活動への取組に関する協定(以下、森づくり協定という)」に基づき、県下2カ所で里山林で保全活動を実施
- ・森の若返りを図るため、現地で採取した種から苗木を育て、社員の手で植栽し、下草刈りなど育樹活動を実施



活動前の集合写真



作業風景

株式会社ニッスイ 姫路総合工場(姫路市、水産加工業等)

- ・2023年10月に本県等と締結した森づくり協定に基づき、「こうでら健康の森(姫路市香寺町行重ほか)」で里山林の保全活動を実施
- ・林内に侵入・拡大しつつある竹の伐採や、下層植生の生育を阻害して生物多様性の低下を招いているヒサカキなどの照葉樹を選択した除伐を社員が実施



活動前の集合写真



作業風景



コラム

企業における生物多様性保全活動事例

住友ゴム工業(株)

加古川工場の敷地内で、準絶滅危惧種のフジバカマを育苗し、加古川河川敷などに移植、緑化環境の維持向上を図るほか、地元の小学校にフジバカマの株分けを行うなど、子どもたちにフジバカマの育成を通して環境保全の大切さを伝えています。

また、市島工場では、社員自らが敷地内で準絶滅危惧種のオオムラサキや絶滅危惧種ⅠB類のホトケドジョウの保護・育成活動も実施、さらに神戸本社では六甲山において、希少種のキキョウやササユリの保全にも取り組んでいます。



住友ゴム工業加古川工場内で育苗するフジバカマ

サントリーホールディングス(株)

「サントリー天然水の森ひょうご西脇門柳山」は、高砂工場の水源涵養エリアにおける水源涵養林で、希少な湿地性植物等の生息・生育の場として機能しています。地域住民や行政、学識経験者、林業関係者などと連携して、水源培養林として高い機能を持つ森を育てています。

また、全社員を対象とした人事研修として、天然水の森での森林整備体験を取り入れるなど、会社内の西日本の体験研修の拠点としても利用されています。



サントリー天然水の森での社員研修
(環境省の「自然共生サイト」に2023年度認定)

生活協同組合コープこうべ

生活協同組合コープこうべは、2008年に兵庫県等と締結した「企業の森づくり活動への取組に関する協定」に基づき、西宮市越水地区の里山林2.5haを「コープの森・社家郷山(しゃけごうやま)」と名付け、長年にわたり育樹活動に取り組んでいます。

月に約1回の頻度でこれまでに約1500名もの職員が自発的に育樹活動に参加しているほか、組合員(一般消費者)向けに体験イベントを主催し、延べ約12,000人の参加を得るなど育樹の普及啓発にも取り組んでいます。(2023年度全国植樹活動コンクール林野庁長官賞受賞)



コープこうべによる育樹活動の状況

イオンリテール(株)

「イオンチアーズクラブ」では、イオンの店舗を拠点とし、地域の日常生活に根ざした環境学習や体験プログラムを実施しています。小中学生を対象として、環境や社会に興味・関心を持ち、考える力を育む場として、兵庫県内はもとより全国各地の店舗を拠点に、行政や地域のNPOなどとも連携しながら、農作業体験や自然観察会、ゴミ拾いをはじめ、地域に根ざしたさまざまな体験学習を行っています。年度末には、1年の活動を振り返り、成果を壁新聞にまとめ、全国で壁新聞の発表大会を行うなど、1年を通して環境について学ぶ機会を提供しています。



イオンチアーズクラブによる地域のNPOと連携した海浜清掃活動

3 知見・技術の集積及び情報発信

各種研究機関等との連携により、生物多様性をめぐる諸課題に対し科学的知見を踏まえた取組を進めます。またホームページやSNS等を通じたタイムリーな情報発信に努め、本県の生物多様性の理解醸成を進めます。

主 な 施 設 等

ホームページ「ひょうごの環境」などによる情報発信

- ホームページ「ひょうごの環境」や県公報SNSなどにおいて、貴重種や外来種などに関する各種情報や生物多様性の保全に取り組む地域団体の活動などをタイムリーに情報発信し、生物多様性への理解醸成や地域活動への参画・連携の促進に努めます。



県立淡路景観園芸学校

- 全国初の緑景観に関する専門職大学院と、園芸療法士を養成する課程、まちづくりガーデナー等を養成する生涯学習課程から成り、花と緑あふれる生活空間や文化を創造していく「景観園芸」という新たな分野における実技・実践主体の教育・研究に取り組む学校です。



県立コウノトリの郷公園

- 県鳥であるコウノトリの野生復帰を目的として、種の保存及び遺伝的な管理、野生復帰のための研究、人と自然が共生するための環境教育などの普及啓発に取り組めます。



国際研究機関との連携

- アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)、(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)、(公財)国際エメックスセンター等の研究機関との連携を通じて、地球環境保全に向けた国際協力を推進します。

兵庫県森林動物研究センター

- 野生動物と人との軋轢から生じる様々な課題に対応するため、自動撮影カメラ等を活用したシカ等の生息数・生息密度の推定、被害状況の把握や捕獲技術の指導、モニタリング調査などを通じて、獣害に強い集落づくりへの支援や、森林環境整備の手法の提案、捕獲野生動物の有効利用、人材育成・普及啓発など、野生動物の保全と管理(ワイルドライフ・マネジメント)を進めます。



県立人と自然の博物館

- 各種調査研究をはじめ、情報の収集・整理・活用とともに行政の施策や地域団体の活動などを専門的な立場からサポートします。
また、自然観察会や生物多様性の保全・再生活動などのイベントや講習の開催による普及啓発のほか、野生植物物の保全を目的としたジーンバンク事業の推進や、展示ギャラリーに作業の様子を見学できる標本制作室を併設した施設「コレクションナリウム」による情報発信に取り組めます。



公益財団法人ひょうご環境創造協会

- 自然環境保全への普及啓発や情報提供、環境アセスメントに準じる自然環境調査、生態系の現地調査、環境DNA分析など各種調査研究などに取り組めます。





コラム

環境DNA分析の利活用

- 「環境DNA」とは、環境中に存在する生物の排泄物や粘液、体表からはがれた皮膚片など、様々な形で放出された生体由来のDNAです。そのDNAを川や海などから採取した水試料から抽出して、そこにどのような生物が存在しているかを調べるのが「環境DNA分析」です。（公財）ひょうご環境創造協会では、この手法を活用して、河川や海などで希少動物を発見したり、生物の分布調査などの研究に取り組んでいます。

【クビアカツヤカミキリの早期発見に向けて】

クビアカツヤカミキリの幼虫は、サクラやモモ、ウメなどに寄生して樹木の内部を食い荒らし、「フラス」というフンと木くずの混ざったものを木の外に排出します。

しかしながら、フラスがこのカミキリのものかどうかの判別が難しいため、協会の環境DNA分析を活用して同定を行っています。これにより、迅速に加害木や周辺木への防除を行うことが可能となりました。

生物多様性の保全に向けて、こうした科学的手法が重要な役割を担うことが期待されています。



環境DNAの分析に用いる
PCR検査装置

（（公財）ひょうご環境創造協会提供）



コラム

「ひとはく」の「コレクションナリウム」

- 県立人と自然の博物館（「ひとはく」）は、開館から30年の節目にあたる2022年に新収蔵庫棟「コレクションナリウム」を開館しました。
- 「標本・資料の持つ価値を、すべての人とひらく」をコンセプトとするこの建物は、人と自然が共生する環境の創造に関し県民の理解を深める「知と賑わいの拠点」としての機能をさらに高めることを目的として、従来の標本・資料の収蔵機能に加え、展示ギャラリーや作業の様子を見学できる標本制作室などを併設したものとなっています。
- 公開エリアとなる1階部分では、多数の標本やデジタル画像を利用した展示を行い、隣り合うワークルームでは標本を活かした体験プログラムなど、様々な利活用を進めています。



拡大装置を使って木材を観察（Kidsサンデー）



展示ギャラリーのはく製を活用したオープンセミナー



気軽に楽しみながら生物多様性を学べる体験講座の一例を紹介します。

他にも、県をはじめ多くの市町や地域団体などが生物多様性に関する講座などを開催しています。

生物多様性について
考えてみませんか！



まずは「参加」

さらに「体験」

「自ら実践してみる」のステージへ

ひとはくセミナー

主催 県立人と自然の博物館(三田市弥生が丘6)

特徴 野外観察や実習、教室での講義など幅広い分野で講座を揃えています。小さな子どもから大人、専門家向けまで多彩な講座を用意しています。特に、一般セミナーは各分野の研究者や専門員が、年間を通じてバラエティに富んだ内容を多数お届けしています。

分野 地球科学、植物、昆虫、動物と生態系、環境と地域づくりなど

区分

- ・ 一般セミナー
- ・ 教職員・指導者セミナー
- ・ Kidsサンデー(月の第1日曜日)
- ・ オープンセミナー

このほか、企画展や地域連携セミナー、セミナーガイド2024各種イベントやワークショップなど



ひとはくセミナー倶楽部

会員登録するとセミナーの申込手続きが簡単になるほか、メルマガ配信、セミナーガイドの送付などの特典あり(年会費無料)



ひとはくセミナー

北摂里山大学(市民大学講座)

主催 北摂里山博物館運営協議会(宝塚市旭町2-4-15)

特徴 都会近くに残されたひょうご北摂の里山地域一帯をフィールドに、里山の再生と管理、生物多様性、環境学習、歴史・文化などを楽しく学ぶことができます。県立大学等の研究者や専門家など充実した講師陣により、実習中心のプログラムを用意、里山の安全や地域の活性化の活動に取り組む人材を育成します。

講座内容

- ・ 全9回の講座(5~2月、土曜開催)
- ・ 定員30名 ※毎年3~4月頃募集
- ・ 受講料18,000円(2024年度)
- ・ 主な内容
里山林の基礎、植生の調査・管理手法、台場クヌギの保全、菊炭づくり体験、里山や湿原などでの生き物の観察、活動団体との交流など



里山整備実習



湿原と里山の関係の学習



北摂里山博物館HP